

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 深澤恵治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 令和4年度 病棟業務とタスク・シフト/シェア推進 オンライン編 を開催

P2 都道府県災害マニュアル説明研修会を開催

P3~P4 全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 最終回

令和4年度 病棟業務とタスク・シフト/シェア推進 オンライン編を開催

令和5年2月19日にWebを用いて「病棟業務とタスク・シフト/シェア推進講習会」を開催しました。開催の目的は、①タスク・シフト/シェアの推進のために必要なノウハウを理解し、行動に移すことを支援する。②臨床検査技師が病棟と関わる上で知っておきたい医療安全、感染対策、また、リーダーに必要なスキルを習得する。とし、この講習会に先駆けて、すでに実践している10施設の好事例紹介、医療安全、感染対策、インシデント情報等をオンデマンド編として受講していただいた後、参加していただきました。

午前中にタスク・シフト/シェアの好事例、院内資格の流れの紹介、リーダーとしての心得の講習を全員で受講していただき、午後は病床数が同程度の施設を3つの班に分け、病棟業務とタスク・シフト/シェア業務に踏み切れない懸念事項、解決策等についてディスカッションしていただきました。どの班も活発な議論がなされ、明日から実践できる成果物ができあがり、これから業務拡大していくことが期待できます。

病棟業務推進WG 委員長 大竹 京子（医療法人社団富家会 富家病院）

～ 受講者からの声 ～

病棟業務とタスク・シフト/シェア推進の研修会 （オンライン研修）に参加して

野木 典久（医療法人養生会 かしま病院）

「病棟業務とタスク・シフト/シェア推進講習会」を受講し、本事業を推進するためにはどのような準備が必要で、またどのような点に注意が必要かなどを既の実践している施設の好事例を通して学ぶことができました。グループワークでの意見交換で現在行っているタスクシフト業務として多かったのは、外来の採血業務や検体採取・POCT機器の管理などで、臨床検査技師が検体採取を行うことでより正確、迅速に結果の報告につながっており今後も継続して行っていく必要があると再確認することができました。今後取り組んでいきたい業務としては病棟業務や救急への対応などの意見が多い一方、なかなか進まない現状があり、要因としてマンパワー不足や業務過多などが挙げられましたが、現在の業務の見直しを図れば検査室外業務に関わる時間が確保できるのではと思われます。そして、臨床検査技師が行う病棟業務では検体採取や検査説明、検査機器の管理など他にも多くありますが、ナースコール対応やベッドメイクなどの看護師補完業務に占める割合が多いとのことから、看護師業務の理解や協力体制を構築することも重要となってきます。今後、診療のあらゆる場面において多職種連携が推進されることが予想されます。今回の講習会を今後の業務に活かして当検査科でも病棟業務やタスク・シフト/シェアに取り組んでいきたいと思っています。

【研修内容】

講演 1 『タスク・シフトの好事例 院内資格の流れ、カリキュラムなど紹介』
 医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院 野村 俊郎

講演 2 『リーダーとしての心得』
 日本臨床衛生検査技師会 代表理事 副会長 丸田 秀夫

グループディスカッション
 ※施設規模ごとにブレイクアウトルームを活用し、ファシリテーターのもとグループディスカッションをおこなう
 （敬称略）

桑山 和哉（南大阪病院）

自分の勤めている南大阪病院は16年前まで、病棟検査技師を2病棟に配属していました。検体検査室、生理機能検査室、分散された外来採血室の業務多忙のため、病棟業務から撤退した経緯があります。今回、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアが推進されています。当院はこれから進めて行く段階であり、今回、他施設の状況や業務するに当たっての情報や問題点を知りたくて参加しました。参加者は少なかったが、いろんな情報交換や情報収集ができて有意義な研修でした。グループミーティングで、コミュニケーションが重要であると改めて感じました。新たな業務を行う時に看護部など他部署や自身の所属部署で、なぜ新たな業務に取り込まなければならないかの理由などの情報共有することが大事だと思いました。野村講師のお話で、力量評価や承認を上席技師だけではなく、看護師長や医師にもチェックしてもらっているお話がとても参考になりました。これから検討して新たな業務に取り組んで行きます。

都道府県災害マニュアル説明研修会を開催

令和5年2月16日、「都道府県災害マニュアル説明研修会」を開催した。参加対象者は、発災時に各都道府県技師会における災害本部の設置や運営に携わることのできる都道府県災害対策連絡責任者等とし、各都道府県から2名の推薦をいただいた。

都道府県技師会の災害対策マニュアルの整備についてはすでに着手していただいております、作成の過程での確認・疑問点を解決するための説明研修会として開催した。研修会では日臨技の災害対策WGから「日臨技 災害対策マニュアルの説明」と「都道府県 災害対策本部マニュアルを整備するにあたって」と題して講演を行い、続いて事前に行ったアンケート調査結果をもとに、質問に対する回答や留意点等について意見交換を行った。最後に総合的に質疑応答を行いマニュアル作成の支援を行った。

講演では、マニュアルについての説明から始まり、平時から行政との連絡や連携が大切であることや、有事の際に臨床検査技師としてできること、また、有事の際の情報の流れや技師会の活動の取り組み方などが分かりやすく説明され、そのあと、事前のアンケート調査で指摘されていた、通信手段、連絡方法・体制や行政及び他機関との連携方法などが詳しく説明された。

参加者数は、97名で2時間の講習会は終了した。いずれ起こりうる災害時に、被害を最小限に抑え、できる限り早期に医療体制を復帰させ、国民の生命と健康を守ることが責務であるわたしたちにとって貴重な研修会となった。

担当執行理事：勝山 政彦

～ 受講者からの声 ～

都道府県災害マニュアル説明研修会に参加して

福吉 葉子（熊本県：熊本大学病院）

令和5年2月16日に開催された都道府県災害マニュアル研修会に参加した。

大規模自然災害の発生により、多くの被災者が日常生活を奪われ長期の避難生活を強いられる現状がある。このため、我が国の災害医療体制は、1995年の阪神淡路大震災の教訓を元にDMATを始めとする様々な医療職による被災者への早期の医療救護が整備されてきており、我々臨床検査技師も他医療従事者同様、医療支援が期待されている。

今回の研修では、森谷裕司氏より「日臨技災害時支援対策マニュアルの説明」、安倍史生氏より「都道府県災害対策マニュアルの説明」、澤畑良一氏より「アンケートでの質問に関する回答」について講演があり、発災直後からの日臨技と地臨技における災害対策本部の立上げ、役割分担とその活動内容について提示された。中でも被災情報の共有は医療支援ネットワークに欠かせないため、行政との連携が鍵となることが理解できた。

熊本地震を経験し、会員の安否確認、会員施設の被災状況の把握、POCTをはじめとする測定機器の貸し出し、人員派遣、避難所でのDVT健診など、多岐にわたる作業にはマニュアルが必要不可欠であること、また、会員自身が被災者であり、所属する施設への対応も並行して行うため、被災県の技師会活動が困難な場合には、近隣の県や日臨技からの支援を受ける「受援体制」の確立が必要であることを学んだ。

熊本県では、災害マニュアル作成を機に県内の会員組織強化を図り、より密なネットワークの構築を計画している。安否確認の具体的な手段や行政とのパイプ作りなど課題もあるが、絵に書いた餅とならぬよう実行可能な災害マニュアルを目指したい。

【研修内容】

日臨技 災害時支援対策マニュアルの説明

医療法人社団大須賀医院 森谷 裕司

都道府県災害対策マニュアルの説明

神戸赤十字病院 安部 史生

アンケートでの質問に関する回答

藤沢市民病院 澤畑 良一

全体を通して質疑応答

日臨技災害対策 WG

（敬称略）

高林 保行（静岡県：JA静岡厚生連遠州病院）

都道府県災害対策マニュアルを整備するにあたり、今回日臨技の説明研修会を受け、平時の医療機能が崩壊した時に求められる臨床検査と連携すべき関係機関との医療支援活動の体制について万全なマニュアル整備の必要性を強く感じました。特に静岡県は昨年台風15号により県内に甚大な被害をもたらした被災された会員もいました。また、東海大地震は1970年代から発生する可能性があると思われていて、近年では南海地震と連動して発生するとも言われています。平時の医療機能が崩壊して失われてしまう状況は容易に考えられ災害医療の支援活動の重大さを改めて実感しております。災害医療現場における臨床検査の基本知識と共に医療支援活動の流れについては十分に理解しておく必要があります。そのために行政機関、DMAT、医師会等の各団体との連携は非常に重要で有事の時は様々な混乱が予想されますので日頃から関係性を構築しておく必要があると考えさせられました。まずは、静岡県臨床検査技師会災害対策マニュアルを早急に見直し整備して行政との連携を円滑に図れる組織体制を構築していくつもりです。

全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 最終回

大分県

大分県臨床検査技師会では令和4年11月23日にあけのアカロス小ホールをお借りして「検査と健康展」を開催しました。今回のイベントを通して、一般市民の健康増進と年1回の健康診断受診の啓蒙を目的としました。コロナウィルス感染症の影響や短時間にも関わらず昨年の約3倍の62名の方が参加されました。すべての検査で技師による検査説明を行いました。特に簡易心電図検査（四肢誘導のみ）では、“心電図波形をみてみよう”“心電図記録時の注意点を波形を見ながら実際に行ってみよう”をテーマに検査をしながら説明を行いました。一般的に検診、病院での心電図検査は記録されるのみであり記録時の心電図波形を見ないことが多いため、今回参加された方々に心電図波形を見ながら検査を行うと「自分の心電図はこんな形なんだ、不整脈ってこういうことなんだ」という声や、わざと手に力を入れてもらい筋電図を入れた波形を見てもらうと「だから心電図をとる時に楽にしてくださいっていつも言われるんだ！」などの声が聞かれ検査技師の常識ではわからない受診者側の本音が聞けたのではないかと思います。



また、進路相談・職業紹介では若い技師がわかりやすくそして熱い説明を行いました。その想いに応えるように参加者も真剣に話を聞いてくれていました。検査結果から検査専門医にも多くの相談があり健康意識の高さを感じました。多くの来場者から感謝の言葉や「1年運動して来年また来ます」との声も聞かれました。中には「毎週してくれない!?!」「来年もここでしてくれる?」「来年また来るから!」などの声に開催の意義を心から感じました。来年からは講演会なども含めた開催も企画して行きたいと思えます。

(大分県臨床検査技師会 渡部 亨)

熊本県

令和4年度全国「検査と健康展」を11月27日（土）イオンモール熊本で行いました。

日臨技からの検査に関するリーフレットを入れた資料300部の配布、肝疾患コーディネーターによる肝炎健診啓発、乳がんモデル触診体験、ヘモグロビン測定を行っ



ています。

乳がんモデル触診体験やパネルを用いた乳がん検診啓発活動では、小学生の娘さんやお父さんも一緒に体験していただくなど幅広い年齢の方に体験いただきました。また、肝炎コーディネーター有資格検査技師による肝炎検診啓発コーナーでは、肝炎の注意点や無料検査の紹介などを行いました。

今年度は新たな試みとしてシスメックスより「ASTRIM SU」を借用し、採血することなく末梢血管内のヘモグロビン推定値測定を実施。女性や高齢者に多い貧血を手軽な検査で身近に感じていただくことができました。

これらの検査を臨床検査技師が専門知識を活用して精度良く迅速に検査していることをアピールすることができた1日となりました。

(熊本県臨床検査技師会 富田 文子)

山形県



山形県臨床検査技師会では、全国「検査と健康展」を12月3日（土）にイオンモール天童で開催しました。コロナ禍ではありますが、基本的な感染対策を行いながら、来場者の方々に体験してもらいながら臨床検査について説明することができました。

内容は、超音波による骨密度測定、「物忘れ相談プログラム」を用いた認知症チェック、心電計を展示してデモ波形の説明、新型コロナウイルス抗原検査とインフルエンザの簡易検査キットを準備して使用方法の説明、パネル展示、顕微鏡標本の説明などを行いました。また、臨床検査技師の仕事を紹介するDVDをプロジェクターを使用し上映しました。

来場者の多くは、骨密度測定と認知症チェックに関心を示していました。中には、臨床検査技師志望の高校生も来てくれて、DVDを真剣に見ていました。将来が楽しみです。

反省点としては会場が奥まった場所にあったため、来場者が伸び悩みました。来年はより多くの方に足を運んでもらえるように工夫して開催したいと思っております。

(山形県臨床検査技師会 佐藤 譲)

神奈川県

2022年12月4日(日)、「検査と健康展」が横浜の新都心プラザにて開催しました。がんや生活習慣病の早期発見のために必要な臨床検査のことや、それを担う



私達臨床検査技師を知ってもらうことを目的に、毎年日本臨床検査技師会が各都道府県で実施しています。今年は検査の重要性をまとめた動画の公開や、各分野の検査を紹介したリーフレットの配布、認知症や血管年齢のポスターの展示、検診や生活習慣病に関するアンケートを実施しました。始めはなかなか足を止めてもらうことはできませんでしたが、委員や理事、ボランティアの声掛けにより、多くの方に展示を見ていただいたり、リーフレットを配ることができました。以前は頸動脈のエコーや血管年齢の測定を実施していたため、「今年はやってないの？」と声をかけられることも多々あり、「検査と健康展」の認知度や健康への関心の高さを感じました。新型コロナウイルスの流行状況等にもよりますが、来年以降にまた実際に検査を行いながら開催できればと思いますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

(神奈川県臨床検査技師会 佐久間 理)

高知県

2022年12月4日(日)、イオンモール高知2階イオンホールで「検査と健康展」高知会場を開催しました。新聞折込チラシやイオンの掲示板を見た方など、125名の方にご来場いただき、臨床検査体験や健康チェックなどを体験していただきました。技師27名、医師1名がスタッフとして参加し、大きなトラブルなく無事イベントを終えることができました。



今回から新たに設けた臨床検査体験では、採血体験と顕微鏡体験のコーナーを作り、一般の方に臨床検査技師の仕事を体験していただき、職業アピールに繋がったのではないかと思います。若年層の来場者が少

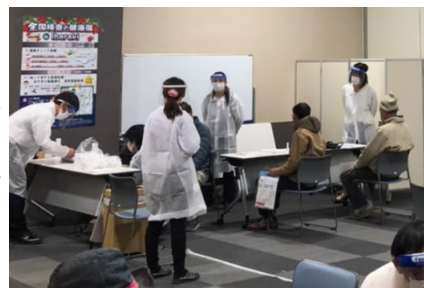
なかったため、次年度は中高生への広報活動を強化し、臨床検査技師という仕事をよく知ることができるコーナーにしていきたいと思います。

健康チェックでは骨密度、簡易ヘモグロビン測定、もの忘れ度チェック、医師の健康相談コーナーを設け、特に骨密度は人気でした。年代的には50～70代の来場者が多く、イベント参加が自分自身の健康に目を向けるきっかけになったのではないかと感じています。今後、より幅広い年代が臨床検査に触れることができるイベントになるよう、努めていきたいです。

(高知県臨床検査技師会 吉永 由菜)

茨城県

令和4年度全国「検査と健康展」in IBARAKIを、令和4年12月17日(土)につくば市にあるショッピングモール内のレンタル会場にて開催



しました。一日を通し、市民参加型検査チェック(血管年齢測定・骨密度測定・認知症スクリーニングテスト)、13時～14時に市民公開講座を実施しました。11時の整理券配布時には約30名の方にお並びいただき、県民の健康に対する関心の高さが感じられました。今回は、主に茨城県県南地区に勤務する茨城県臨床検査技師会会員17名を実務委員とし開催しましたが、慣れない環境の中精一杯頑張っていただきました。開場時には既に約30名が並んでおり、感染対策を万全にするため、①入場時の検温 ②機器の都度消毒 ③アンケートを紙ではなくWEBで実施 ④2人用机を1人で使用 ⑤スタッフのフェースガードとマスク、PPE着用を徹底しました。市民公開講座では、筑波メディカルセンター病院循環器内科診療科長 相原英明先生に「慢性動脈疾患」の症状、検査法、治療法等を講演いただきました。心筋梗塞と他疾患の見分け方や、救急者を呼ぶ際に準備した方がよいこと等、参加者の興味をひく内容の講演であり、講演後の質疑応答が活発に行われました。健康チェックと市民公開講座を通じて、県民の方々の、健康に対する意識の向上と臨床検査技師に対する理解が深められたと感じております。

(茨城県臨床検査技師会 内藤 麻美)

全国の会場でご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました！



(編集後記) 2022年度は新型コロナウイルス感染が続く中、感染対策など工夫しながら多くの都道府県で全国「検査と健康展」を開催していただき感謝いたします。新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日より感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられますが、新たな感染症への対策や自然災害への対策について、臨床検査技師としても今回の経験を踏まえてマニュアルなど検証し備えていきたいと思います。

(花牟禮)